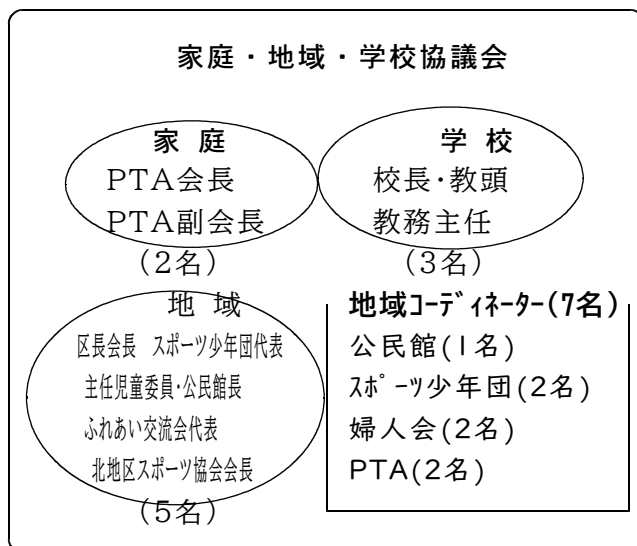


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 家庭・地域・学校協議会の構成



(2) 協議会の内容

開催日程と協議内容

- 第1回 6月13日(木)
スクールプラン等説明
- 第2回 10月19日(土)
ふれあい交流会
- 第3回 12月12日(木)
角鹿小中学校校区合同協議会
(小中一貫校について)
- 第4回 2月21日(金)
今後の課題のまとめ

(3) 協議会における成果と課題

本校の教育活動に協力的に関わっていただいた。児童のことをよく知っている方々ばかりなので、協議会では地域での児童の様子を積極的に伝えてもらい、学校の活動に活かすことができた。「ふれあい交流会」では、企画・運営まで中心的な役割を務めていただき、会の最後には「感謝の集い」を実施し、児童と地域の方々との交流という目的を果たすことができた。来年度は、閉校を迎えるため、地域協議会との連携がより一層大切になってくる。協議内容を整理し、どのような協力を得ることができるか考えていくことが大切である。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- 修学旅行先でのふるさとPR活動の実践を軸として、ふるさとの長所を再認識し、地域に貢献する思いや、ふるさとへの誇りを育てる。
- 地域について体験的に再認識していく活動を、6年生の主体的な発案で企画・運営し、地域の方や卒業生、下級生とともに活動することで、ふるさとへの愛着を深め合う。

(2) 活動の実際

I 修学旅行に向けた「ふるさとPR」プロジェクト(6年生) 9月18日

- 修学旅行での「ふるさとPR」を目的とし、地域コーディネーターのご支援も受けながら、事前調査を行い、校区の観光スポットパンフレットを作成し、インタビューをしながらPRを行う。
- 「古代から日本の中でも重要な港として発展してきた」、「行き交う多くの人を歓待する精神や文化が受け継がれている」の2つをPRの柱にする。

- 校区のお土産として「昆布せんべい」、「博物館パンフレット」「ファイル」を渡す。
- PR活動についての感想をいただけるよう返信用アンケートはがきを渡す。

Ⅱ 北地区ふれあい交流事業 10月19日（全学年）

本事業は、公民館、区長会、老人会、婦人会、中学生、PTAなどが連携し、校区の歴史や文化に親しむとともに、地域の様々な人との交流を深めるために行われてきた。今年度も、児童が運営面に携わった。



- 司会進行、代表あいさつ、ルール作り

6年生の中から実行委員を選出した。開閉会式の運営やグループリーダー、ウォークラリーのルール説明などを行った。自作のパワーポイントを使ってルールを説明したり、グループリーダーとしてウォークラリーではマップを持って低学年児童や地域の方を先導したりして活躍した。

- 感謝の集い

閉会式では、日頃お世話になっている地域の方々（老人会・婦人会・見守り隊・区長会・中学生・PTA）を対象に「感謝の集い」を行った。代表の方をステージに招き、一人ずつに代表児童が感謝の気持ちを伝えた。普段児童の活動を支えてくださっている方々が一同に集まる機会であったため、多くの方に感謝の気持ちを伝えることで「ふれあい・感謝」の目的を例年以上に深めることができた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

- 児童の地域調査活動に協力・支援をいただいた
- 児童の発表活動の事前練習に協力いただき、児童に直接助言をいただいた
- 交流事業での児童との交流活動、交通安全指導、チェックポイントでのクイズ出題や交流活動の補助などで、各地域団体の代表者として活動を支援していただいた。

（4）特に工夫した事項

- 児童の活動にご支援・ご協力いただくという視点で、コーディネーターを依頼した。
- 児童が主体的に活動し、その上で少しでも地域づくりに貢献できる体験的活動の実現を目指した。

（5）成果と課題

地域の様々な方にご協力いただき、今回紹介した他にも、目的に沿って展開された様々な実践に取り組むことができた。本校校区の地域の方々は、学校の活動に対して理解があり大変協力的である。様々な取組を通して、児童の思いを地域に届ける活動を意識して実践してきた。地域の方々には、大変喜んでいただいている。学校だけでなく地域と一体となって児童の学びを進めていくことの意義を感じた。

今後は地域の課題にも目を向け、児童自身が「自分たちで地域をつくる」という思いを育むことができる実践にも取り組んでいきたいと考える。また、地域の思いを児童が受け取り、自分たちに何ができるかを探っていく活動にも取り組みたい。